

「地域資源を活用した活力に満ちた地域づくり」

島根県 奥出雲町



林野庁の「全国水源の森百選」に選ばれた霊峰玉峰山の麓から湧き出る亀嵩温泉を活用し、観光・交流の拠点施設として「玉峰山荘」を建設した。平成18・19年には全国旅行情報誌で、「お気に入り温泉ランキング」2年連続県内1位に選ばれている。



多くの観光客で賑わう亀嵩温泉「玉峰山荘」。



首都圏の百貨店での奥出雲仁多米の販売の様子。

事例の概要

- 平成17年3月に旧仁多町と旧横田町の合併により誕生した奥出雲町は、町財政に配慮しながら、地域資源を活用した奥出雲椎茸、仁多米、奥出雲酒造の地域ブランド化による産業振興、町100%出資の第三セクターの設立による雇用の創出、健全経営の実施、空き工場・空き家を活用した企業誘致や定住対策の推進、玉峰山荘、サイクリングターミナルなどの地域間交流の促進、過疎地域の自立・活性化に資する施策に町として総合的に、かつ幅広く取り組んでいる。
- 町内施設を活用して、定住対策、情報通信対策、スポーツ振興等による地域振興も積極的に実施している。
- このように様々な事業を行うことにより、町内において産業の創出及び雇用の創出に一定の成果を上げており、市町村合併が進展する中での過疎対策のあり方として、一つのモデルをなしているといえる。

評価のポイント

高度経済成長に伴い、都市部に人口が集中し、本町においては過疎化が進行するなか、人口の減少を食い止め、かつ所得の不均衡を是正するため、産業の振興及び都市部と比肩しうるサービスの提供を指向していく必要が生まれた。

平成17年3月に旧仁多町と旧横田町の合併により誕生した奥出雲町は、過疎・高齢化が進む山間農業地域であり、豪雪地帯にも指定されている。これまで、町財政に配慮しながら施設整備を推進し、施設を拠点とする第三セクターを積極的に活用して、森林・米・茸などの地場産品を地域資源として産業振興を行うと共に、地元亀嵩温泉等も地域資源として活用するなど、観光・レクリエーション施策にも取り組んでいる。

また、旧仁多町と旧横田町の間では社会資本整

備状況などの格差にかんがみ、その是正・一体化に重点的に取り組んでおり、市町村合併が進展する中での過疎対策のあり方として、一つのモデルとなっている。

昭和55年から平成12年までの20年間における人口減少率は、島根県内過疎町村の11町村中、2番目に低い値となっている。これは、様々な要因が複合的に影響しあった結果であると考えられるが、これまで行ってきた様々な事業も、人口減少を防止するのに一定の効果をもたらしたのと考えられる。

このように、本事例は、地場産品、温泉、町内施設といった「地域資源を積極的に活用した活力に満ちた地域づくり」を推進し、自治体が主導する過疎地域の自立・活性化に向けた取り組みであるとして、評価された。



椎茸農家から集荷し、自動選果機により選果、パック詰めし、毎日都市部の大型スーパー等へ出荷している。



国道2路線が交差する交通の要所であるJR出雲三成駅構内に農産物や加工品の直売所をコンビニエンスストアに併設して建設し、連日多くの利用で賑わっている。

島根県 奥出雲町 (おくいずもちょう)



| 国勢調査人口 (単位:人) | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|--------|
| 昭和35年 | 昭和45年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 |
| 26,820 | 20,878 | 17,426 | 16,689 | 15,812 |

| 人口増減率 (単位:%) | | | | 高齢者・若年者比率(17年) | |
|--------------|---------|--------|---------|----------------|-------|
| H17/S35 | H17/S45 | H12/H7 | H17/H12 | 高齢者比率 | 若年者比率 |
| △41.0 | △24.3 | △4.2 | △5.3 | 34.3% | 12.5% |

●交通のご案内●

自動車 中国自動車道東城ICから国道314号、432号経由70分
 鉄道 JR木次線出雲三成駅から徒歩10分
 飛行機 出雲空港から車で50分

●団体連絡先●

島根県奥出雲町
 〒699-1592
 島根県仁多郡奥出雲町三成358番地1
 TEL.0854-54-1221 (代表)
<http://www.town.okuizumo.shimane.jp/>